

日本心理学会第 83 回大会 公募シンポジウム 17
日本心理学諸学会連合・日本心理学会連携企画

大学の心理学教育に活かす心理学検定の役割

2019(令和元)年 9 月 11 日(水) 13:20 - 15:20

立命館大学 大阪いばらきキャンパス A 棟 2 階 AC237

企画者:

藤田 圭一 (日本体育大学／日本心理学諸学会連合心理学検定局)
大坊 郁夫 (北星学園大学／日本心理学諸学会連合心理学検定局)
小野瀬 雅人 (聖徳大学／日本心理学諸学会連合心理学検定局)
堀毛 一也 (東洋大学／日本心理学諸学会連合心理学検定局)
沢宮 容子 (筑波大学／日本心理学諸学会連合心理学検定局)
小林 剛史 (文京学院大学／日本心理学諸学会連合心理学検定局)

司会者:

小林 剛史

話題提供者:

太田 信夫 (東京福祉大学／日本心理学諸学会連合心理学検定局)
秋山 学 (神戸学院大学)
茂本 由紀 (京都文教大学)

指定討論者:

横田 正夫 (日本大学／日本心理学諸学会連合)

心理学検定は 53 団体が加盟する日本心理学諸学会連合が運営・認定する検定試験である。心理学検定の申込者数は、第 1 回の 1,335 人から純増し続け、2018 年の第 11 回目は 5,683 名に及んでいる。さらに公認心理師の国家試験対策や各心理学関連学会入会資格、大学における教育評価、大学院入試一部免除等、多種多様な活用事例がみられるようになった。2018 年に心理学領域で初めての国家資格である公認心理師が誕生したことを機に、今後、心理学検定の基礎資格としての位置づけがより重要なものとなっていくことが期待される。そこで心理学検定局では近年、日本心理学会大会において、心理学検定の多様な活用事例を、テーマを設定しつつ紹介している。本シンポジウムにおいては、特に近年心理学検定の活用が顕著な神戸学院大学および京都文教大学に、その活用事例を紹介いただき、これについて多方面から議論することで、今後の心理学検定の更なる発展可能性を探る。